

Spanish Arabicに関する一考察

— その歴史的背景と音韻的特質 —

石原 忠佳

I. 序 論

1. アラビア語口語としての Spanish Arabic

アラビア語口語、とりわけモロッコ、アルジェリア、チュニジア、リビアなどで話されているいわゆる西方アラビア語口語は、古典アラビア語からはきわめて逸脱した言語的側面を呈している⁽¹⁾。このような特質の形成は、こうした国々が歩んできた歴史的背景に負うところは大きく、さらにその形成過程でのさまざまな言語との接触というもう一つの要因も、十分に検証されてしかるべきであろう。

こうした西方アラビア語口語の一つに分類されるべき言葉として、今日では既に話されることのなくなった南スペインのアラビア語口語がある。いわゆる Spanish Arabic 時には Andalusī Arabic と称されるこの話し言葉は、北アフリカ各地で他のアラビア語口語のみならず、様々な系統の異なった言語と接触を保ち、最終的には 8 世紀初頭のアラブ人によってイベリア半島にもたらされた口語がその起源である。このアラビア語口語はその後南スペインで、話し言葉としての地位を揺るぎないものにし、8 世紀以降アル・アンダルスの地は、スペイン語とアラビア語の二重言語併用地帯へと移り変わっていく⁽²⁾。

しかしながら 13 世紀に至ると、この地に居住するイスラーム教徒のアラ

ブ人たちは、ロマンセの使用を放棄して、次第にアラビア語のみの単一言語使用者 (monolingual) となっていく⁽³⁾。この頃がアラブ人支配の絶頂期、またそれに伴うアラビア語の普及が目まぐるしかった時代である。

イベリア半島におけるイスラーム教徒の支配に終止符が打たれ、再びキリスト教徒の手に戻るまでには、その後3世紀が経過することになる。キリスト教支配下におかれた最後のイスラーム教徒たちは、確かにアラビア語を話し続けてはいたが、そうした状況は取るに足らないものであった。17世紀初頭イスラーム教徒がジブラルタル海峡を越えて北アフリカへ追放された頃は、すでにイベリア半島における口語としてのアラビア語の痕跡はごくわずかであった。8世紀以来アラビア語を母体に、アル・アンダルスの文化、伝統を担い続けてきたアラブ人のイスラーム教徒は、その歴史上の舞台を再度北アフリカへと移すことになる。そして彼らの言語的痕跡も、北アフリカのアラビア語口語の中に埋没してしまうのである。

2. イベリア半島にみられる Diglossia

何もアラビア語に限ったことではないが、書き言葉と話し言葉の間の落差が大きい言語ほど、外国人にとってその習得は困難をきわめることになる。こうした「書き言葉」と「話し言葉」といった一つの言語が呈する二つの側面を、二つの言語変種としてとらえる diglossia (二重言語兼用) を前提として、近年 Youssi, A (1995) はアラビア語におけるその具体的な例を示している⁽⁴⁾。彼は現代モロッコにおける triglossia (三重言語兼用) を取り上げているが、当時の南スペインの言語的状況を検証する際にも、彼の問題のとらえ方は極めて有効である。というのは、13世紀以前のイスラーム教徒支配下のイベリア半島では、ロマンセ vs. アラビア語といった二重言語併用 (bilingualism) のみならず、正則アラビア語 vs. 口語アラビア語といった「書き言葉」と「話し言葉」の二つが兼用されていたからである。

東方アラブ世界からイベリア半島に導入された正則アラビア語で、当時のアル・アンダルスを代表する文法学や語彙論に関する著作が執筆され、次々に世に出る一方で、アラビア語の話し言葉も当時の社会生活で広く普及していた。すなわち、正則アラビア語と話し言葉としてのアラビア語口語を、自由に駆使していたのが一握りの上層階級 (high register) であったのに対し、アラビア語口語のみがそれ以外の社会階層に深く浸透していた。いわゆる当時のスペイン社会の大半を構成していた中流階級 (standard or educated register) や下層階級 (substandard or low register) の人々である。とりわけ後者が用いる言葉は、アラビア語と呼ばれるには統一性に欠け、従来のアラビア語とは音形や文法的な面であまりにもかけ離れた形態であった⁽⁵⁾。いずれにせよ、初期のアラビア語方言がいったいどのようなものであったかを推定するにあたり、アル・アンダルスのアラビア語は様々な言語的側面で恰好の材料を提供し、様々な示唆を与えている。さらに通時言語史的視点から確認できるのは、初期のアラビア語方言のみではなく、近代のアラビア語方言もそのほとんどが、古典アラビア語ではなく古代アラビア語 (Old Arabic) に由来する様々な素性を受け継いでいる事実である。また今日のアラビア語方言となったものは、その形成の過程で系統の異なる幾つかの外国語と接触し、その影響を少なからず被った経緯を指摘することができる。

3. アル・アンダルスのアラビア語の起源

アル・アンダルスのアラビア語は他のアラビア語口語と比べ、一連のきわだった特質を顕す。多くのアラビア語学者はこうした特質を、イスラーム・スペイン時代にイベリア半島で話されていたイスパニア・ロマンセの傍層によるものであるとしているが、筆者はこうした見解とは立場を異にする。アル・アンダルスのアラビア語の特質については、統一言語 (koine) として確立し古典アラビア語を生んだ北アラビア語群の諸方言ではなく、むしろ4

世紀から5世紀にかけて消滅したり、あるいはオマーンやソコトラ島付近へ押しやられた南アラビア語群の諸方言との間に共通性を見いだしているからである⁽⁶⁾。事実、アル・アンダルスのアラビア語は、今日アラビア半島のイエメンで使用されているアラビア語方言と様々な類似点を共有しているのである。いずれにせよ、北アラビア語群の諸方言も南アラビア語群の諸方言も、アラブ人の到来を機にほぼ同時にイベリア半島に導入され、正則アラビア語と共に各地に浸透していったのは確かである。

またこの地域のアラビア語口語に、さらなる独自性を与えたもう一つの要因として、当時北アフリカ一帯で話されていた、ベルベル語の存在を度外視することはできない⁽⁷⁾。ベルベル語はリーフ語 (tarifit)、タマジフト語 (tamazikht)、さらにシェルハ語 (Tashelhit) のさらに三つの細分化方言に分類され、とりわけリーフ語やアルジェリア方面に広がるカビーリ方言 (kabylie) が、アル・アンダルスのアラビア語にもたらした影響を端的に指摘できよう。モロッコでは今日でもその約半数の住民がベルベル語とアラビア語の二重言語併用者であるとされ⁽⁸⁾、その歴史のあるいは地理的近隣性から、これらのベルベル語諸方言もアラブ人の侵入とともに、南スペインの地に渡って来たことに疑問の余地はない。

押し並べて言うならば、Spanish Arabicの検証にあたっては北アラビア語群諸方言の影響のみならず、南アラビア語群諸方言やベルベル語の言語的特質もその考察の対象となる訳で、これらが当時のイスパノ・ロマンセと接触する過程で、いわゆるSpanish Arabicの体系が確立していったということになる。

今回の小論では、アル・アンダルスのアラビア語の音韻的側面のみならず焦点をあて、古典アラビア語との比較から音韻的変遷の主なるものを取り上げることにしたが、一連の語彙に関しては、若干ではあるがその意味的推移に触れることのできたものもある。

II. 母音に関して (Vocalism)

1. /a/: imāla (硬口蓋化) がみられ特に /ā/ の際に顕著

- /a/ > /e/:⁽⁹⁾ Neu. *almoneda* < /almunāda/ 「競売」 < {ndw}, 《alquicel》

「モリスコの衣服」 < Neu. *alquicē* < /al-kisā/ 「衣類」 < {ksw}

- /a/ > /i/:⁽¹⁰⁾ 8世紀以降, 特にグラナダ県で見られた現象

wīld < /wālid/ 「父」

- /a/ > /o/: 今日のポルトガル語で検証される

“alcaçova” 《alcazaba》 < /alqašaba/ 「サトウキビ」 < {qsb}, “Marrocos”

(marruecos) 「モロッコ」 < /marṛākuš/ (marrakech) 「マラーケシュ 《モ

ロッコの地名》」

- /a/ > /u/: SA では唇音化がみられる

fumm < /famm/ 「口」, Alc. *ārmula* < *armula* < /armala/ 「未亡人」

- /a/ > /ye/: アラビア語マルタ方言にみられる⁽¹¹⁾

2. /i/: 口蓋垂音との接触で様々な異音 (allophone) として現れる

- /i/ > [e] > /e/: Neu. *mezquino* < /miskīn/ 「貧乏人」, Tp. Albacete
< /al-basīṭ/ 「平坦」, Tp. Almadeque < /almaqīq/ 「狭さ」

- /i/ > [ʌ] > /a/: *qatā* ‘ 「お金」 < /qitā/ ‘ 「部分」, *ašāba* ‘ < /ašābi/ ‘
「指 《複数》」

- /i/ > /u/: 軟口蓋唇音との接触の際にみられる

Va. *juwār* < /jiwār/ 「隣接」, Alc. *gonī* < Va. *ḡunā* < /ḡinā/ 「歌」

3. /u/

- /u/ > /o/ > /o/:⁽¹²⁾ 口蓋垂音との接触の際にみられる

Neu. *alboque* < /al-būq/ 「フルート」, *alcohol* < /al-kuḥūl/ 「アイシャド

ウ], *algodón* < /al-*quṭun*/

- /u/ > /a/: この現象は古代ポルトガル語にみられたが, 今日でもポルトガル地域で若干検証される “*alcanavy*” < /al-*qinnabī*/ 「麻で作られた」

4. 二重母音 (Diphthongs) の扱い

他のアラビア語口語では従来の二重母音が消滅したのに対し, アル・アンダルスのアラビア語においては, 二重母音は時代を下っても保持された。したがって, /ay/ > /e/, /aw/ > /o/ などの単母音化は, ロマンセ間における現象として区別されなければならない。しかしながら, 地名 (Toponyms) などでは単母音化が顕著おこっていた。

- /ū/ > /aw/: Va. *ṣawf* < /ṣūf/ 「羊毛」

- /u/ > /aw/: Va. *rawz* < /ruzz/ 「米」

- /ay/ > /e/: 《*aldea*》 < /al-*dáy* ‘a/ 「寒村」

- /aw/ > /o/: 《*azote*》 < *açote* < /al-*sáwṭ*/ 「鞭」, 《*alfoz*》 < /al-*ḥáwz*/ 「郊外」

- /ay/: 地名においても, そのまま二重母音が引き継がれた

Tp. *Albaida* < /al-*báyda*/ 「白いもの」, *Algaida* < /al-*gayda*/ 「小さな森」

しかしながら以下のような例外も検証されている

- Alc. にみられる単母音化:

alhen < /al-*ḥayn*/ 「死」, *méaâ* < /*may* ‘a/ 「安息香」

- SA における長母音での対処:

La 132. *ṣunūbar* < /ṣanawbar/ 「パイナップルの樹, 実」, IQ 107/8/2.

lūḥ < /lauḥ/ 「板」, 70/6/1. *xīr* < /ḫayr/ 「善」, Va. *kīf* < /kayfa/ 「どのように」, *līs* < /laysa/ 《否定の副詞》, *šī* < /šay’/ 「物事」,

III. 子音に関して (Consonantism)

1. 唇音 (Labials)

1-1. /b/ [有声両唇破裂音]: 音韻 /b/ はアル・アングルスに導入された当時は, [p] と [β] の二つの異音を有していたと想定される

- /b/ > /p/: 語中または語尾で

《arrobe》 < /al-rúbb/ 「果実のジュース」, Tp. Rápita < /rábða/ 「見張りの強化」

- /b/ > [β] > /f/: 無声子音との接触の際

Dc 11. *fix* < /báš/ 「~のために」, IQ 85/4/2. *kasfūra* < *kazβúra < /kuzbura/ 「こえんどろ《植物》」

- /b/ > [β] > /w/: 母音間または内破音 (implosive) として⁽¹³⁾

Va. *lawwa* < /lábwa/ < /labu'a/ 「雌のライオン」, *awāb* < /abwāb/ 「門《複数》」

- /b/ ~ /m/: この両唇音間の相互交替は ESA や OA で顕著であった

Va. *qinnab* ~ *qinnam* 「サトウキビ」, *marham* ~ *barham* 「塗り薬」

- /b/ > /m/ > /n/: この現象はロマンセ特有の語尾の扱いである

《alacrân》 < /al-'aqrab/ 「さそり」, 《almotacên》 < /al-muhtasíb/ 「市場監視人」

- 音位転換 (metathesis): *matalahúva* ~ *matafalúa* 「アニス《植物》」 < /habbat ḥalúwwa/ 「甘い穀物」

1-2. /p/ [無声両唇破裂音]

- /p/ > /b/:⁽¹⁴⁾ 地名においては通常 /p/ は /b/ に取って代わられたが, ロマンセの影響を被った地域では一連の語彙にそのまま /p/ が残った⁽¹⁵⁾

Tp. *Hispalis* > *išbilya* (Sevilla) 「セビリヤ」, 《alpargata》 「麻の履物」 <

Alc. *pārga*~*pargāt* < /bulǧa/ 「黄革のサンダル」, 《capa》 「祭服《複数》」
 < Alc. *qūpāp*~*qūbāb* 「礼拝堂《複数》」 < /qībāb/ < /qubba/ 「丸屋根,
 丸天井」,

1-3. /f/ [無声唇歯摩擦音]

- /f/ > φ: 語尾において

Tp. *Almansa* < /al-maŋsaf/ 「道程の半分」

- 同化 (assimilation): この現象は多くのアラビア語方言で顕著にみら
 れる⁽¹⁶⁾

Va. *nuṣṣ* < /niṣf/ 「半分」, Alc. *icēl* < /asfāl/ 「下に」, Va. *anassī* < /bināfsi/ > Alc. *enēci* 「わたし自身」

1-4. /m/ [両唇鼻音]

- /m/ > /n/: Tp. *Alfamén* < /al-ḥammām/ 「温泉」, Va. *ibzín* < La 16. および Zm 94. *bizím* < /ibzīm/ 「ブローチ」, Mi 4.2.2.3. *xnsh* < /ḫamsa/ 「五」, *ynšy* < /yamšiw/ 「彼らは行く」, Neu. *alhaquīn* < /al-ḥakīm/ 「医者」, 《alcotán》 < Alc. *cotān*~*cotāna* < /al-qaṭām/ 「ハヤブサ」

- /m/ > φ: 語尾において⁽¹⁷⁾

Tp. *Benaque* < /ibn ḥakam/ 「統治者の息子」, Tp. *Benamocarra* < /ibn mukarram/ 「高貴な息子」

1-5. /w/ [両唇半子音]: OA では /w/ は /ʔ/ や /y/ と交互に現れた。⁽¹⁸⁾ こうした /w/ や /y/ の唇音性は、イエメン方言に代表される ESA 全般にわたる特徴である。⁽¹⁹⁾

- /w/ > /y/: IQ 130/5/3. *izāra* < /wizāra/ 「庁舎」, Alc. *irāca* <

/wirāta/ 「相続」, Dz 2:18. *ḡayyā* < /ḡawwa'/ 「照らす」, Va. *fawḡa*~*fayḡa* 「匂い」, *jay'ān* < /jaw'ān/ 「空腹」, *jayyā'* < /jawwa'/ 「餓死する」

- /w/ > [v] > /g^v/: ロマンセで検証される

Alc. *gwaḡūla*~*vḡuelē* 「女性経営者」 < {wkl}⁽²⁰⁾

- /ww/ > /yy/: 一連のアラビア語方言にみられる

EGA. *nayyam* < /nawwam/ 「寝かせる」, MRA. *qiyyim* < /qawwam/ 「起こす」

2. 歯音 (Dentals)

2-1. /t/ [無声歯破裂音]: 女性名詞語尾 {-at} における形態素 /-t/ は文字上は /-h/ で現れる

Va. *adah* < /adat/ 「器具」, *ḡayyāh* < /ḡayāt/ 「人生」, *šāh* < /šāt/ 「羊」

- /t/ > /d/: Z 1423. *waḡdak* < /waḡtak/ 「あなたの時代」

- /t/ > /d/: IA 384. *faḡḡ* < /fatq/ 「断絶」

- /t/ > /t̪⁽²¹⁾/: Z 102. および IQ 18/2/4. *isd*~*ist̪* < /ist/ 「後部」,

Z 202. *'ifrīt̪* < /'ifrīt/ 「小悪魔」, Z 1697. *waḡḡak* < /waḡḡak/ 「あなたの時代」, Gl 32. *ta'āḡī* < /ta'āḡin/ 「傲慢」, IQ 85/3/2. および /95/4/3. *tastahī* < /tastahī/ < {hyw} 「恥じる」,

2-2. /d/ [有声歯破裂音]: 上層階級の言語や教養語 (high register) では, /d/ は /d̪/ [歯間摩擦音] との間に音韻上の区別がなされていたが, 下層階級 (low register) ではこれら二つの音韻に混同がみられた。この現象はロマンセの基層 (substratum) の影響を被った例である

- /d/ > /d̪/: 時には二つの音韻に混同がみられた

Gl. *ḡafīd* < /ḡafīd/ 「孫」, Va. *ḡida* < /ḡid' a/ 「鳶」, IA 200. *'arbad*

「喧嘩する」 < {‘rbd}, IH 32. *dāba* < /dāba/ 「今」⁽²²⁾

- /d/ > /d/ = (/z/): 初期の頃には /z/ あるいは /d/ が /d/ に代わって用いられていた

‘*arbaḍa* ~ IQ 90.14. ‘*arbaḍa* 「喧嘩する」, Va. ni ‘*arbiḍ* ~ ni ‘*arbiḍ* 「私は喧嘩する」

- /d/ > /t/: アラビア語からスペイン語に入った語彙, あるいは Tp. における単語語尾で確認される

《*alcahuete*》 < /al-qawwād/ 「ポン引き」, Tp. *Alberite* < /al-barīd/ 「郵便」

- /d/ > /r/: 語尾において

Tp. *Guadalaviar* < /wad al-abyaḍ/ 「白い川」, Tp. *Benamor* < /ibn ḥammūd/ 「称賛に値する息子」

- /d/ > ∅: /d/ の語尾での消失はロマンセ間におけるきわだった現象である

Tp. *Benimodo* < /bani mawdūd/ 「親愛なる息子」

- /d/ > ∅: 語中において⁽²³⁾

Z 857. *way* < /wādī/ 「川」, Z 1254. *waliyya* < /walīda/ 「女の子」⁽²⁴⁾

- /d/ > /l/: ロマンセにも共通したこの傾向は, 下層階級 (substandard register) の SA で検証される

cigala < *cīcāda* 「ウミザリガニ」, *mielga* < *mēdīca* 「ウマゴヤシ 《植物》」,

Va. *mulūliya* < *mēlōdīa* 「メロディー」

2-3. /t/ [無声歯咽頭化破裂音]

- /t/ > /t/: アラビア語からスペイン語に入った語彙, あるいは Tp. の転写にみられる

《*alquitrán*》 < /al-qitrān/ 「タール」, Tp. *Alconétar* < /al-qunáyṭar/ 「小

さな橋」

- /t/ > /d/:⁽²⁵⁾ ロマンセにおいて多く確認される

《*adobe*》「日干しレンガ」< /aṭṭūb/ 「レンガ」, Alc. *denbeq* 「へこませる」

< Va. ṭanbaqa~danbaqa < /ṭunbūqa/ 「突起」< {ṭbq}

- /t/ > /d/:⁽²⁶⁾ baḥḥā < /baḥḥā' / 「平坦な」

2-4. /d/ [有声歯咽頭化破裂音]

- /d/ > /z/:⁽²⁷⁾ 表記上の誤りであることが頻繁であった

IQ 5/3/3. alḏafāyr < /aḏḏafā'ir/ 「三つ編みの髪」, 7/174. ḏāyi' <

/ḏāyi' / 「失われた」, 142/2/2. ḏuraysāt < /ḏuraysāt/ 「小さな歯」

- /d/ > /ld/ : アラビア語からスペイン語に入った語彙にみられる

《*alcalde*》「市長」< /al-qādī/ 「裁判官」, 《*albayalde*》< /al-bayād/ 「鉛白」

- /d/ > /t/ : ロマンセにおいて移行する

《*arriate*》「壁際の細長い花壇」< /arriyād/ 「庭《複数》」, DE 208. *atafera*

< /aḏḏafīra/ 「三つ編みの髪」, Alc. 34. *ard* < /ard/ 「大地」

2-5. /n/ [鼻音]: 一連の研究者は /n/ を歯茎音として分類している

- /n/ > /m/ : 語尾において

Va. xammam < /ḡammam/ 「考える」, ḥalazūm < /ḥalazūna/ 「カタツムリ」

- /n/ > ∅:⁽²⁸⁾ 語尾において

IA 314. ḥusay < /ḥusayn/ 《固有名詞》, J 32. janī < /janīn/ 「胎児《複数》」,

Va. lay < /li-ayna/ 「どこへ」

- /n/ > /l/ : 今日この現象は北アフリカのアラビア語方言のみならず,
東部アラビア語方言でも頻繁におこっている

Va. ziwāl < /ziwān/ 「毒麦」

- /n/ > /y/ : ḥays < /ḥanaš/ 「蛇」

- 同化: att < /anta/ 「あなた」
- 重複子音の異化^{(29), (30)}: Va. qanzīr < */qazzīr/ < qazdīr < /qaṣdīr/ 「錫」, IA 437. al-funqa < /al-fuqqā'a/ 「食用キノコ」

3. 歯茎音 (Alveolars)

3-1. /r/ [振音]: SA における /r/ の振幅は一定しておらず, /r/ との区別は単なる文字上のパリエーションとみなすことができる

- /r/ > /rr/: Alc. *ṣurriāni* < Va. *surriyānī* ~ Gl. *surrānī* < /sūrī/ 「シリア人」, La 274. *zarrī'a* < /zarī'a/ 「種」
- /rr/ > /r/: La 281. *dāra* < /darra/ 「妾」
- /r/ > /y/: 硬口蓋化⁽³¹⁾

Alc. *mihād* < Va. *mīḥād* < /mirḥād⁽³²⁾/ 「野外便所」, MT 752.11. *tīja'* < /tirja'/ 「彼女 (あなた) は戻る」 < {rj'}

- /r/ > /l/: Va. *bilsām* < /birsām/ 「無言症」, *dirdāla* < /dirdāra/ 「トリネコ」, *malastān* < /māristān/ 「病院」

3-2. /l/ [側音]

- /l/ > /r/: この音韻の移行は時には同化現象, また時には異化現象によっている

Tp. *Alpartir* < /al-bartīl/ 「賄賂」, Va. *rutayra* < /rutaylā'/ 「蜘蛛」, *sarsala* < /silila/ 「鎖」, *ḥarazūna* < /ḥalazūna/ 「カタツムリ」,

- /l/ > /n/⁽³³⁾: Alc. *miqnīn* < IH 63. *miqnīn* < /miqlīn/ 「ゴシキヒワ《鳥》」, Va. *ḥanakī* < {ḥlk} 「黒い」

4. 歯間音 (Interdentals)

4-1. /t/ [無声摩擦音]: 歯間音はロマンセにおいて文字上は *th*, *s*, *c*,

c および z で, また Alc. では ⁽³⁴⁾ê で表記された

- /t/ > /t/: Va. katūliqī < /katūliqī/ 「カトリック教徒」, Z.1127.
itna 'šar < /itna 'šar/ 「12」

- /t/ > /f/: foraya ⁽³⁵⁾< /turayyā/ 「巨人 Atlas の 7 人娘 《ギリシャ神話》」, Alc. fēme < /tamma/ 「あそこ」

- /t/ > /d/ > (/z/): DE. ataharre 「尻が³い 《馬具》」 < zafar < Va. dafar < /tafar/

- /t/ > /z/: Gl 28. ḥarrāz < ḥāriz < {hrt} 「犁 《農具》」

4 - 2. /d/ [有声摩擦音]

- /d/ > /d/: darra ⁽³⁶⁾< /darra/ 「原子」, Va. daxīra < /daxīra/ 「宝」,
nidaxxar 「私は貯蓄する」 < /daxxar/ 「彼は貯蓄する」 ⁽³⁷⁾

- /d/ > /l/: 語中において

IH 64. maylaq < /mīdāq/ 「試金石」, Va. ilā lam < /idā lam/ 「もし…
…でないなら」

- /d/ > /d/ > /d/: azfar adib ⁽³⁸⁾< /azfār addīb/ < azfār al-dī' b/ 「オ
オカミの爪」, La 154. muwaddah < {wdh} 「汚い」

5. 齒擦音 (Sibilants)

5 - 1. /s/ [無声齒茎前部舌背 (alveoro-predorsal) 摩擦音]

- /s/ ~ /z/: 相互交替 ⁽³⁹⁾

Va. ḥāris ~ ḥāriz < /ḥāris/ 「監視人」, 'ukkās ~ 'ukkāz 「杖」 < /'ukkāz/
「支柱」, mihrās ~ mihrāz < /mihrās/ 「乳鉢」, 《ébanó》 < abanūs ~ abanūz
< /abanūs/ 「黒壇」

- /s/ > /š/: Va. surra ~ šurra < /surra/ 「へそ」, IA 99. šur ⁽⁴⁰⁾<
/sur/ 「城壁」, Z 486. nāqūš < /nāqūs/ 「鐘」, Tp. Azaña < /al-šāniya/

「水車」 < {sny}

- /s/ > /š/: この二つの音韻はしばしば混同されたが、時には単なる転写上の誤りである場合もあった⁽⁴¹⁾

Alc. *xırxem* < Va. *širsām* < /sirsām/ 「熱狂」, *dauẓır* ~ *dauçar* < /dawšar/ ~ /dausar/ 「毒麦」

5 - 2. /ş/ [無声歯茎前部舌背咽頭化 (alveoro-predorsal pharyngealized) 摩擦音]

- /ş/ > /z/: 異音として相互交替がみられた

Va. *qazdır* < /qaşdır/ 「錫」, *qafaş* ~ *qafaz* < /qafaş/ 「鳥籠」, La 194. *mazdağa* < /mişdağa/ 「枕」, Alc. *niçrāni* < /nişrāni/ 「キリスト教徒」

- /ş/ > /s/ > /z/: Gl. *musāra‘a* < /muşāra‘a/ 「闘争」, Alc. *çûfar* < *asfar*⁽⁴²⁾ < /aşfar/ 「黄色」, *azl* < *asl* < /aşl/ 「起源」

5 - 3. /z/ [無声歯茎摩擦音]: /z/ はアラビア語起源のスペイン語の語彙では、文字上 /g/ あるいは /j/ となった

《jirafa》 < *zirāfa* < /zarāfa/ 「キリン」, 《jinete》 「騎手」 < /zanātī/⁽⁴³⁾ 「ベルベルの一部族」

6. 前硬口蓋音 (Prépalatals)

6 - 1. /š/ [無声摩擦音]:

- /š/ > /s/: 有声歯擦音 /j/ に隣接する際、/s/ への異化作用がみられ、Alc. においては文字上 *ç* または *c* で表記された

Alc. *çagiâ* < **sajī‘* < /šajī‘/ 「勇敢な」, *çjāra* 「イチジク」 < **sajara* < /šajara/ 「樹木」

しかしながら SA においてはこの変化は一定せず、標準的な用法ではないが、むしろアラビア語起源のポルトガル語の語彙にみられる。さらにスペイン語に導入された段階では、この /s/ は /j/ に移行している⁽⁴⁴⁾
 《jerife》< “serife” < /šarīf/ 「高貴な」、《almojarife》< “almosarife” < /al-mušrif/ 「検査官」

6-2. /j/ [有声破擦音]

- /j/ > /g/: イエメン人がイベリア半島に到来した際に、本来破擦音であった /j/ に代わって、有声軟口蓋摩擦音の /g/ の音を導入したとの説が有力である。この説は Tp. におけるアラビア語表記から裏付けられている⁽⁴⁵⁾
 Tp. Tajo < Tagus < /tājuh/, Trujillo < Targalium < /turjāluh/, 《galbana》「怠惰」< *galbāna < /julubbāna/ 「エジプトまめ《複数》」

- /j/ > /z/ = [ž]⁽⁴⁶⁾: [ž] は地名あるいはポルトガル語において、表記上は /z/ で現れる

Tp. Marzalcadi < /marj al-qādi⁽⁴⁷⁾/ 「裁判官の牧場」、《zamba》「黒人とインディオの混血」< /janba/ 「不純な」、《jorro》「網」< “zorro” < /jurr/ 「牽引」

- /j/ > /d/: /š/ との近接における異化現象

Va. addaššā < /ajjaššā/ 「ゲップをする」、dišār < /jišār/ 「アンダルシア地方の農場」

- /j/ > /ch/ = [tʃ]: ロマンセにおける無声音化⁽⁴⁸⁾
manchil < /manjil/ 「半円形の鎌」、Neu. *chirivía* 「アメリカぼうふう《植物》」< Alc. *girivía* < /jiriwiyya/, Tp. Alborache < /al-buráyj/ 「小さな塔」

- /j/ > /y/: Tp. Alboraya, Alborea < /al-buráyja/ 「小さな塔」、Alc. *aliara* < /al-járja/ 「水差し」

- /j/ > /š/: /š/ はロマンセでは /x/ で表記された⁽⁴⁹⁾

Tp. Borox < burūs⁽⁵⁰⁾ < /burūj/ 「塔《複数》」, Alborax < /al-burájj/ 「小さな塔」

7. 軟口蓋音 (Velars)

7-1. /k/ [無声破裂音]

- /k/ > /g/: アラビア語からスペイン語に導入された際に有声化した
《barragán》「羊毛の布」 < /barrakān/ 「衣類」, 《almáciga》「乳香」 < /al-maṣṭikā/ , 《jábega》「地引き網」 < /šábaka/ 「網」

- /k/ > [χ]: ベルベル語傍層 (ゼナタ細分化方言) の影響⁽⁵¹⁾

Mi 4.2.2.22. aḫtar < /aḫtar/ 「より多い」, Alc. ogtúber < uḫtúbar < /oktōbir/ 「10月」,

- /k/ > φ: アラビア語からスペイン語に導入された語彙の語尾において
《almojaba》 < *almuḫaba* < /al-muṣabbak/ 「格子窓」, 《zabra》「二本マストの古代船」 < /zauraq/ 「手こぎボート」

7-2. /q/ [無声破裂音]⁽⁵²⁾:

- /q/ > [k]=/c/: Tp. およびアラビア語からの借用語において⁽⁵³⁾

Tp. Alcantara < /al-qanṭara/ 「橋」, Alacuás < /al-aqwās/ 「虹《複数》」, 《alcahuete》「売春斡旋人」 < /al-qawwād/ 「指導者」,

- /q/ > /g/⁽⁵⁴⁾: Tp. Alguibla < /al-qíbla/ 「メッカの方向」, DE 15. *gabela* 「税金《複数》」 < /qabāla/ 「責任」, (*acelga*) 「フダン草《植物》」 < Alc. *cēlque* < Va. *salq*~*salk* 「野菜」 < {slq},

7-3. /g/ [有声破裂音]

- /g/ > /q/: ベルベル語から導入された一連の語彙にみられる

Dz.1.1. *alfaneque* 「ハヤブサ」 < 'frāq < /afrag/ 「スルタン (君主) のテント」, *tecla* 「鍵盤」 < Va. *tāqra* < /tagra/ 「くぼみ」⁽⁵⁵⁾

8. 口蓋垂音 (Uvulars)

8-1. /χ/ [無声摩擦音]: この音韻はロマンセでは /c/, /q/, /f/, /g/ など
 で表記され, 今日のスเปน語では /j/⁽⁵⁶⁾ となった

- /χ/ > /k/: 《*alcachofa*》 < *alcarchofa* < /al-χaršūf/ 「朝鮮アザミ
 《植物》」, *roque* < /ruχχ/ 「ルーク 《チェス》」,
- /χ/ > /f/: 《*alforja*》 「鞍カバン」 < /al-χurj/ 「鞍袋」
- /χ/ > /g/: 《*algarroba*》 「えんどう豆」 < /al-χarrūb/ 「ソラ豆」
- /χ/ > /ğ/: IQ. *ğit* < /χayt/ 「紐」
- /χ/ > [x]=/j/: Tp. *Aljandequ* < /al-χandaq/ 「溝」

8-2. /ğ/ [有声摩擦音]

- /ğ/ > /x/⁽⁵⁷⁾: Zm 107. *xarz* < /ğarz/ 「杭」
- /ğ/ > /'/: SA. におけるこの変遷は ESA. の影響を指摘できる
 Alc. *jaârafia* 「宇宙形状史学」 < Va. *ja'rafiyya* 「世界地図」 < /juğrāfiyya/
 「地理学」
- /ğ/ > φ: De 14. *almofar* < /al-muğfar/ 「兜」, Tp. *Moeda* <
 /muğayda/ 「小さな森」 < {ğyd},

9. 咽頭音 (Pharyngeals)

9-1. /'/ [有声摩擦音]

- /'/ > /h/: 異化現象による無声音化
- IQ 50.6 および 112.1. *maḥ-ḥa* < /ma'a-hā/ 「彼女といっしょに」
- /'/ > /h/ > φ: ロマンセにおいて

Alc. *cahca* 「パンケーキ」 < {k'k}, Dc 14. *tahtii* 「あなたは与える」 < taḥt⁽⁵⁸⁾
 ī < {'tw}

- /'/ > φ: 下層階級 (substandard) の間で消失する

La 24. *naṭā* < /niṭ'/' 「革製のテーブルセンター」, al-jīma⁽⁵⁸⁾ < /al-jāmi'/'
 「イスラーム寺院」, MT 115.7. *šārī* < /šāri'/' 「大通り」,

- /'/ > /g/: ロマンセの表記で

《*algarabīa*》 「意味不明な事柄」 < /al-'arabiyya/ 「アラビア語」, 《*algarrada*》
 < /al-'arrāda/ 「投石器」

9-2. /ḥ/ [無声摩擦音]

- /ḥ/ > /'/: 有声化

Va. *quzquza* ' < /qaws quzah/ 「虹」

- /ḥ/ > /h/: 下層階級の SA. で声門音化 (glottalization)

MT.1024v2. *hulūl al-fawt* < /ḥulūl al-fawt/ 「死の到来」

- /ḥ/ > /x/⁽⁶⁰⁾: MT 619.3. *xānūt* < /ḥānūt/ 「店」, Alc. *cāḳla* <
 /kaḥlā' / 「キツタ 《植物》」

- /ḥ/ > /k/: 《*almadraque*》 < /al-maṭraḥ/ 「マットレス」

- /ḥ/ > φ: 《*abarraz*》 「シオガマギク 《植物》」 < /ḥābb al-ra's/ 「頭部の
 の瘤」

- /ḥ/ > /j/: Tp. *Albojaira* < /al-buḥáyra/ 「湖」, *Aljocén* < /al-ḥuṣáyn/
 「小さな要塞」

- /ḥ/ > /y/: DE 14. *atarraya* 「投げ網」 < /al-ṭarrāḥa/ 「枕型のクッション」

- 過剰訂正 (hypercorrection): *mash* < /masχ/ 「怪物」

10. 声門音 (Glottals)

10-1. /h/ [摩擦音]

- /h/ > ϕ : 特に語尾において

Va. fākiya~fikya < /fākiha/ 「果物」, fī⁽⁶¹⁾ < /fīh/ 「その中に」, Alc

10.19. faqūī < IQ 23.4 y 50.3. faqī < Z 924./faqīh/ 「法学博士」,

Alc. xebbē < /šabbaha/ 「捏造する」

- 過剰訂正 (hypercorrection): fī⁽⁶²⁾-h < /fī/ 「~の中に」

- /h/ > /h/: この現象はアラビア語マルタ方言 (Maltese) にみられる⁽⁶³⁾

10-2. /' / [破裂音]

- /' / > /:/ (長母音化): Va. šān < /ša' n/ 「習慣」, rīm < /ri' m/ 「ガゼル《動物》」, fūs < /fu' ūs/ 「鍬《複数》」, Alc. hamī < /hama' / 「泥」

- /' / > ϕ ⁽⁶⁴⁾: Va. farrā < /farrā' / 「毛皮商人」, w-anta < /wa-' anta/ 「そしてあなた」

- /' / > /y/: /i__a/ または /a__i/ の組み合わせにおける語中で
Z 241. miyya < /mi' ah/ 「百」, Va. maybar < /mi' bar/ 「針箱」

- /' / > /w/: /a__u/ または /u__a/ の組み合わせにおける語中で
Alc.royaci < Va. ruwasā~ruyasā 「ムーア人の首領」 < /ru' sā' / 「大統領
《複数》」, Va. tawlīf < /ta' līf/ 「編纂」

- /' / > /'/: Va. faqa' < /faqa' / 「彼は目を引き抜いた」

- 子音重複 (gemination)⁽⁶⁵⁾: Va. fāll < /fa' l/ 「兆候」, 'ibb < /'ib' / 「重荷」, ridd⁽⁶⁶⁾ < /rid' / 「助け人」,

《略語》

(SA)=Spanish Arabic, (OA)=Old Arabic, (ESA)=Epigraphic South Arabian, (Tp)=Toponyms, (EGA)=Egyptian Arabic, (MRA)=Moroccan Arabic

(Alc)=Pedro de Alcalá, *Arte para ligeramente saber la lengua araviga y Vocabulista aravigo en letra castellana*, Granada, 1505,

(Neu)=Neuvonen E.K., *Los arabismos del español en el siglo XIII*, Helsinki-Leipzig, 1941,

(Va)=C.Schiaparelli (ed.), *Vocabulista in arabico*, Florence, 1871,

(IQ)=García Gómez E., *Todo Ben Quzmān*, Madrid, 1972,

(La)=R. 'Abdattawwāb (ed.), *Lahn al'awāmm (ta'lif Abī Bakr M.B. ḥasan. b. Madḥij al-zubaydī)*, Cairo, 1964,

(Dc)=M de Ayala, *Doctrina Christiana en lengua arabiga y castellana*, Valencia, 1566.

(ZM)='A. Maṭar, *Lahn al-'amma fī daw' addirāsa't alluḡawīyyah alḥadīth ah*, Cairo, 1967,

(Dz)=R. Dozy, *Supplément aux dictionnaires arabes*, Leiden 1881,

(Mi)=C.Barceló, *Minorías islámicas en el país valenciano*, Madrid-Valencia, 1984,

(Z)=M. Binšarlīfah (ed.), *Amṭāl al'awām fī l'andalus*, Fez, 1971,

(IA)='A. Al. Ahwānī: *《Amṭāl al'ammah fī L'andalus》 Ilā Tāhā Husayn*, Cairo, 1962,

(Gl)=Ch. Seybold (ed.), *Glossarium latino-arabicum ex unico qui exstat codice Leidense.....*, Berlín, 1900,

(IH)='A. Al. Ahwānī, *《Alfāz maḡribīyyah min kitāb Ibn Hišām allaymī fī lahn al'ammah》 Revue de l'Institut des Manuscrits de la Ligue Arabe 3,,* 1957,

(DE)=R. Dozy y Engelmann, *Glossaire des mots espagnols et portugais dérivés de l'arabe*, Leiden, 1869,

(J)='Abd Al.Wahhāb, H. H, (ed.), *Al-jumāna fī izārat al-riḡāna*, Cairo, 1953,

(MT)=A. Gonzales Palencia, *Los Mozárabes de Toledo en los siglos VII y VIII*. 4 vols. Madrid, 1936,

《特殊音素記号》

/ĉ/=[ts] postdental affricate (後歯破擦音),

[v]=non-fricative continuant (無摩擦継続音),

[β]=bilabial fricative (両唇摩擦音),

[e]=mid-high front unround vowel (/i/ の異音として),

[ɔ]=mid-high back round vowel (/u/ の異音として),

[Λ]=mid-back round unround vowel (/a/ の異音として)

- イタリック体は Alc. で確認される語彙

- 《 》内は現代スペイン語に導入されたアラビア語からの借用語 (arabism)

- / / 内は古典アラビア語

- { } は古典アラビア語の語根

- “ ” はポルトガル語に導入されたアラビア語からの借用語

註

- 1) 古典アラビア語を基底とした、西方アラビア語と東方アラビア語の語彙比較に関しては、石原 (1998) 「古典アラビア語とアラビア語の諸方言化」、『創価大学外国語学科紀要』第8号, 97-119.
- 2) 711年にイスラーム勢力がイベリア半島に侵入し、最終的にはその約3分の2がイスラーム勢力の支配下となった。これがアル・アンダルが包含した最大領域である。さらに「ロマンセ」(Romance) と呼ばれた当時のスペイン語は、俗ラテン語から分化して間もない初期の形態を有し、現代スペイン語とはかなりの隔たりがあった。
- 3) 確かにアラブ人たちはロマンセも駆使できたようであるが、その水準はあくまでも、後に習得した第二外国語程度にとどまっていたとされる。
- 4) Youssi, A; 《The Moroccan triglossia: facts and implications》*International Journal of the Sociology and Language*, 112, (1995), 29-43.
- 5) アル・アンダルスのアラビア語では音韻上、歯音 (t, d) と歯間音 (t̪, d̪) の混同や、咽頭化音 (s̠, t̪, d̪, q̪) と非咽頭化音 (s, t, d, k) の混同がみられたが、これらの現象は話し言葉のレベルにおいても二つの水準が存在していたことを物語っている。
- 6) 拙稿「南スペインのアラビア語における言語学的諸相 I」、『地中海学研究 XX』, (1997), 127-151.

- 7) 当時のベルベル人の状況に関しては、拙稿「歴史から見たスペイン社会の特質」『スペインの社会 Waseda libri mundi 28』(1998), 170-191.
- 8) これにさらにフランス語を加えた三言語使用 (trilingualism) の状況に関して、前出 Youssi, A (1995) は社会言語学的考察を試みている。
- 9) Alc 34. *heḡē* < /hāda/, *ēnne* < /anna/, *hūe* < *hūwe* < /hūwa/, *me* < /mā/
- 10) Alc 34. *guīgib* < *wǧjib* < /wajaba/
- 11) H. Blanc, *Communal dialects in Baghdad*, Cambridge (USA), 1964, 42.
- 12) Alc 34. *matlobīn* < /maṭlubīn/, *nucōlo* < /nuqūlu/
- 13) アル・アンダルスのアラビア語の形成に一役を担ったアラビア語諸方言の中には、すでに異音 [β] を用いていたものがあったと推定される。こうした /b/ の摩擦音化はイベリア半島やモロッコで顕著であるが、一連の研究者はこの摩擦音化の起源をアラビア語には求めず、ペルシャ語、アラム語、さらに一部のベルベル語に特有な現象であることを指摘している; 《A suvey of spirantization in Semitic and Arabic phonetics》, *Jewish Quarterly Review* 60, 1970, 147
- 14) H. Mercier, *Dictionnaire arabe-français*, Rabat, 1951
- 15) アラビア語の子音重複に対して Alc. では /p/ で対応した。反対に中世のイスパノ・ロマンセで /p/ で書かれた部分を、アルハミアダ文字では /bb/ あるいは /ff/ などの子音重複で対応した; 拙稿「イスラーム・スペインにおける言語事情」, 『東洋学術研究 31-2』(1992), 125-142.
- 16) J. D. Latham, 《Arabic into Medieval Latin》 *Journal of Semitic Studies* 17-1, 1972, 30.
- 17) R. Lapesa, *Historia de la lengua española*, Madrid, 1980, 505
- 18) Va, 205.
- 19) T. M. Johnstone, 《Mehri Lexicon and English-Mehri word-list》 *School of Oriental and African Studies*, London, 1987.
- 20) Alc 34. *aguilī* < *awilī*, *gue* < /wa/, *guīgib* < *wǧjib*, *aw* < *aw*
- 21) この現象は言語学上は /t/ の軟口蓋化 (velarization), あるいは咽頭化 (pharyngealisation) として扱われる。ところで、アラビア語口語は常に硬口蓋化 (imāla), あるいは軟口蓋化/咽頭化 (tafḡīm) のいずれか一方の現象により特徴づけられ、前者はサウジアラビア西部のネジド古代方言 (Najdi), メソポタミアで話されていたキルトゥ方言 (Qiltu), SA, さらにマルタ方言で確認され、いっぽう後者はヒジャーズ古代方言 (Hijāzi), ベドゥインの近

- 代アラビア語方言, アラビア半島方言, シリア, イラク, ウズベキスタンのアラビア語方言で確認される。しかしながら *imāla* と *tafḫīm* の両方が同時に確認される方言は存在しないことが明らかとなっている; Ch. Seybold (ed.), *Glossarium latino-arabicum ex unico qui exstat codice Leidense.....*, Berlín, 1900, 32.
- 22) MRA. では現在でも *dāba* 「今」が健在である。
- 23) /d/ の語中における消失は, 今日スペイン語口語でも健在である。
- 24) EGA. *wiliyya* も同一の意味を有する。
- 25) モサラベの言語では /t/ < /d/ といった反対の現象が確認されている: Tp. *Qurṭba* < *Córdoba*, *ṭuṭu* < *todo* 「すべて」, *qaṭīna* < *cadena* 「チェーン」
Z 229. *Santibaṭr* < *San Pedro* 《人名》
- 26) R. García de Linares, 《Escrituras árabes pertenecientes al Archivo de Nuestra Señora del Pilar en Zaragoza》 *Homenaje a Codera*, Zaragoza, 1904. 184.
- 27) SA の初期の形成過程では, [d̤] (咽頭化破裂側音) と [d̥] (咽頭化歯間摩擦音) が二つの異なった音韻として存在していたと推定される。事実 OA ではこれら二つの音韻の存在が検証されていて, 文字上は /z/ が音韻 [d̥] に対応していたことが明らかとなっている; J. Cantineau, *Études de linguistique arabe* Paris, 1960, 54-55.; R. Steiner, *The Case for fricative-laterals in Proto-Semitic*, New Haven, 1977, 69-73.
- 28) 語尾の /-n/ の消失はグラナダ地方の SA で顕著な現象であるが, さらにイベリア半島東部全般における語尾 /-n/ の消失は, カタロニア語の音韻体系の影響を被った現象であるとの仮説がある: カタロニア語 *mesquí* < スペイン語 《*mesquino*》 < /*miskīn*/ 「貧しい」
- 29) この異化現象はロマンセ間で特有なもので, ポルトガル語でその例が確認されている: “*enxavegas*” < /*aššabaka*/ 「網」, “*enxoval*” < /*aššuwár*/ 「嫁入り道具」; F. Corriente, *Arabe Andalusi y lenguas romances*, Madrid, 1992, 48.
- 30) F. Corriente はこの種の同化を, アッカド語やアラム語でよく知られた現象であると指摘している; F. Corriente, *A grammatical sketch of the Spanish Arabic Dialect Bundle*, Madrid, 1977, 42.
- 31) /r/ がその振音的素性を失い硬口蓋音 /y/ へ移行した例。
- 32) 通常「便所」を意味するこの語彙は, 今日モロッコ全域で健在である。
- 33) この移行は今日のアラビア語モロッコ方言で健在である: *lnā* < *nnā* 「我々

のために」

- 34) Alc. *ĉalāĉa* < /tālāta/ 「3」, *yĉney* < /itnayn/ 「2」, Alc 34. *acĉar* < *aktar* 「さらに多い」, *aĉēni* < /attānī/ 「二番目の」
- 35) O. J. Tallgren, 《Los nombres árabes de las estrellas y la transcripción alfonsina》, *Homenaje M. Pidal*, II, 1925, 708
- 36) W. Hoenerbach, *Spanisch-islamische Urkunden aus der zeit der Nasriden und Moriscos*, Bonn, 1965, 362.
- 37) /d/ と /ḍ/ の混同がしばしば検証されたのはロマンセの基層によるもので、この二つの音韻が異音とみなされたからである。さらに他のアラビア語の方言においても、こうした現象は頻繁におこっている: Alc 34. *alledī* < /alladī/ 《関係代名詞》, *hedē* < /hāda/ 「これ《指示代名詞》」, Va. *i'āda* 「反復」 ~ *i'āda* 「防衛」, MRA. *llī* < EGA. *illī* < /alladī/ 《関係代名詞》, MRA *ilā* < /idā/ 「もし」
- 38) O. J. Tallgren (1925), 666.
- 39) /z/ は Alc. およびロマンセでは /ç/o/c/ で表記され、無声破擦音 [ts] で発音された: 《*acitara*》「壁」 < *azitara* < /al-sitāra/ 「覆い」, Alc 34. *acemeguēt* < a(s) + *samawāt* < /assamāwāt/ 「空《複数》」, *iĉm* < *izm* < /'ism/ 「名前」, *yaharēc* < /yahras/ 「彼は観察する」, *ĉabaā* < /sāb'(a)/ 「7」
- 40) J. Busquet, 《El código latino-arábigo del Repartimiento de Mallorca》, *Boletín de la Sociedad Alqueológica Luliana*, 30, 1952, 252.
- 41) 音韻 /š/ は Alc. では表記上 /x/ となった; F. J. Simonet, *Glosario de voces ibéricas y latinos usados entre los mozarabes*, Madrid, 1889, LXXXVII n.1.
- 42) W. Hoenerbach (1965), 362. 12
- 43) この形態は民間語源にみられたが、教養語では /zanāki/ が用いられた
- 44) この /š/ から /s/ への移行は、SAと北アフリカのユダヤ人によって話されていた方言との間にみられる類似性を物語っている; J. Blau, *The emergence and linguistic background of Judeo-Arabic*, Jerusalem, 1981, 77.
- 45) この発音は ESAにみられる特徴で、Alc. にも引き継がれている: Alc 34. *guīgib* < /wlijib/
- 46) 歯擦音 /j/ を摩擦音 [ʒ] で発音する傾向は、北アフリカのアラビア語方言のみではなく、シリア方言などの東方アラビア語圏にもみられる。
- 47) MT I. 79

- 48) DE. 299
- 49) 注41 参照
- 50) MT 916. 2
- 51) H. R. Singer, 《Zum Arabischen Dialekt von Valencia》 *Obis*, 1981, 320; F. Corriente, 《Los romancismos del Vocabulista》 *Awraq*, 4, 1981, 7.
- 52) F. Corriente は /q/ を口蓋垂音として分類し, 軟口蓋音 /k/ と区別しているが, /q/ を軟口蓋音と定義する際には /k/ を前硬口蓋音に含めている; cf. Corriente (1977), 53. および (1992), 56.
- 53) Alc. においても若干の例がある; Alc 34. *cal* < qāl 「言う」, *calbu* < qalb 「彼の心」
- 54) この例とは反対に, /g/ を含むロマンセの語彙を SA. に転写の際には, /q/ が多く用いられた: 《alhóndiga》「穀物市場」 < *alfóndega* > *alfúntiqa* 「公共穀物庫」, Tp. Zaragoza > *saraqūṣṭa*
- 55) ラテン語の語中音 /-k-/ から派生して有声化した /g/ を含むロマンセの語彙は SA. では /g/ で表記された: *guerra* 「戦争」 > *girra*; F. Corriente, 《Los fonemas /p/, /c/, /g/ en árabe hispánico》 *Vox Romanica* 37, 1978, 214-218.
- 56) さらに Alc. ではこの音韻の表記に /k/ を用いている: Alc 34. *yaḡdēmu* < *yaxdāmu* 「彼は仕える」, *ḡalaq* < *xalaq* 「彼は創造した」
- 57) ロマンセでは /x/ は /k/ で表記された; Alc. *ḡācel* < {ḡsl} 「洗淨」; さらにモザラベの言語における音韻との関連では, 次のような過程を想定できる;
- ① /k/ から派生した /g/ はモサラベでは /x/ で表記された: *laxtiyyīn* 「イチジクの樹皮の滲出」 < LACFICUS (ラテン語)
- ② 後に /g/ は /ḡ/ と混同された: *naxsal* < **nagsal* < *naḡsal* 「私は洗う」 < {ḡsl}
- ③ /x/ は Alc. でも /k/ で表記され, そのスペイン語での対応は /j/ であった。したがって音韻および意味的変遷に関して, 以下のように想定できる
《lejía》「漂白剤」 < Alc. *leḡxiā* < *laxtiyyīn* < Va. *laḡṣiyya*
- 58) L. P. Harvey, 《The Arabic dialect of Valencia》 *And* 36, 1971, 102.8
- 59) P. León Tello, 《Cartas de población a los moros de Urzante》, *Actas del primer Congreso de estudios árabes e islámicos*, Madrid, 1964, 343.10
- 60) /x/ はロマンセでは /k/ で表記; 注56), 57) 参照。
- 61) R. Dozy, *Le calendrie de Cordoue de l'année 961....*, Leiden, 1873

62) *ibid*, 159.

63) この現象はさらにベドゥインのアラビア語口語にもみられる; A. Steiger, *Contribución a la fonética del hispano-árabe y de los arabismos en el ibero-románico y el siciliano*, Madrid, 1932, 259.

64) Alc 34. *içm* < *izm* < /'ism/; 注39) 参照。

65) アラビア語モロッコ方言において、語頭および語尾の /'/(hamsa) は消失し、/y/ (稀には /w/) に取って代わられる傾向がある。さらにこうした際の消失は、通常第二語根の重複によって補われる: *béll* < /'ibil/ 「ラクダ《複数》」

66) R. 'Abdattawwāb, *Lahñ al'amma wattatawwur alluġawī*, Cairo, 1967, 193.

結びにかえて

現代スペイン語に導入されたアラビア語からの借用語に関しては《 》内に示したが、脱稿後それらの語源および意味的変遷を再度確認すべく、今一度いくつかの文献に目を通すことにした。そのような過程で、Real Academia Española (スペイン王宮アカデミー) 編の *Diccionario de la lengua española* の語源を印した項を参照するのは、筆者のいつもながらのいきさつであるが、本論 6-2. で取りあげた《zamba》の語源に Real Academia をはじめとして多くの辞典が俗ラテン語起源を強調し、筆者のアラビア語源 /janba/ とは見解を異にしている点が、今もって気がかりである。

なお今回は新たに、1998年に出版された前田信夫編著『スペイン語のなかのアラビア語起源小辞典』芸林書房を大いに活用させていただいた。氏はそのはしがきに、「学校教育においても、イスラムスペイン当時の歴史にあまり深く触れたがらないことは、スペイン本国についても同様な傾向らしい……。」とのきわめて的確な見解を寄せている。さらに、〈イスラムスペインの800年の言葉と文化の遺産〉というサブタイトルにみられるように、氏が

イスラムスペインに抱く探究心からは並々ならぬものが伝わってくる。このような趣旨から、こうした類のアラビア語辞典を著作として世に出された氏のイニシアティブに、筆者はひそかに敬意の念を表する一人である。

References:

- 'A. Al. Ahwānī, 《Alfāz maġribiyyah min kitāb Ibn Hišām allaxmī fī laḥn al' ammah》, *Revue de l'Institut des Manuscrits de la Ligue Arabe*, 3, 1957, pp.125-157 & 258-321.
- R. 'Abdattawwāb (ed.), *Laḥn al' awāmm* (ta' līf Abī Bakr M. B. ḥasan. b. Madḥij al-zubaydī), Cairo, 1964, p.16
- 'A. Maṭar, *Laḥn al'amma fī daw' addirāsāt allugawiyyah alḥadītah*, Cairo, 1967.
- M. Binšarlīfah (ed.), *Amtal al' awām fī l'andalus*, Fez, 1971, p.102
- H. Blanc, *Communal dialects in Baghdad*, Cambridge (USA), 1964, p.42.
- J. Blau, *The emergence and linguistic background of Judeo-Arabic*, Jerusalem, 1981, p. 77
- J. Busquet, 《El código latino-arábigo del Repartimiento de Mallorca》, *Boletín de la Sociedad Alqueológica Luliana*, 30, 1952, pp. 705-758.
- J. Cantineau, *Études de linguistique arabe*, Paris, 1960, pp. 54-55.
- F. Corriente, *A grammatical sketch of the Spanish Arabic Dialect Bundle*, Madrid, 1977, p. 57
- , 《Los fonemas /p/, /č/, /g/ en árabe hispánico》 *Vox Romanica*, 37, 1978, pp. 214-218.
- , 《Nuevos berberismos del hispanoárabe》, *Aurāq*, 4, 1981, pp. 22-30.
- , *Arabe Andalusī y lenguas romances*, Madrid, 1992, pp. 47-48.
- , *A dictionary of Andalusī Arabic*, Leiden-New York, 1997.
- R. Dozy, *Supplement aux dictionnaires arabes*, Leiden 1881, I, 139
- W. Hoenerbach, *Spanisch-islamische Urkunden aus der zeit der Nasriden und Moriscos*, Bonn, 1965, p.117

- Ishihara. T, «Linguistic Situation in the Islamic Spain», *Review of Oriental Studies*, 32-2, 1992, pp.131-135.
- , «Características Lingüísticas del Arabe Dialectal Andalusi», *Mediterraneus*, XX, 1997, pp.127-151.
- T. M. Johnstone, «Mehri Lexicon and English-Mehri word-list», *School of Oriental and African Studies*, London, 1987.
- R. Lapesa, *Historia de la lengua española*, Madrid, 1980, p.505
- J. D. Latham, «Arabic into Medieval Latin» *Journal of Semitic Studies*, 17-1, 1972, p.30.
- H. Mercier, *Dictionnaire arabe-français*, Rabat, 1951.
- C. Schiaparelli (ed.), *Vocabulista in arabico*, Florence, 1871, p.205
- Ch. Seybold (ed.), *Glossarium latino-arabicum ex unico qui exstat codice Leidense.....*, Berlin, 1900, p.32
- F. J. Simonet, *Glosario de voces ibéricos y latinos usados entre los mozarabes*, Madrid, 1889, LXXXVII n.1.
- H. R. Singer, «Zum Arabischen Dialekt von Valencia», *Obis*, 1981, pp. 27-30
- A. Steiger, *Contribución a la fonética del hispano-árabe y de los arabismos en el ibero-románico y el siciliano*, Madrid, 1932, p. 259.
- R. Steiner, *The Case for fricative-laterals in Proto-Semitic*, New Haven, 1977, pp. 69-73.
- J. N. Zavadovski, *Arabskie dialektý Magriba*, Moscow, 1962, p. 45.
- «A suvey of spirantization in Semitic and Arabic phonetics», *Jewish Quarterly Review*, 60, 1970, p. 147.